

特 集

臓 器 移 植

序 文

この間、TVの医学講座を何気なくかけてみたら、友人の高安君（東大教授）の顔が出てきたので、オヤと思ったら例の腎移植のその後の報告をやっていました。あれは確か昨年夏だったからもう年余にわたって、而も社会復帰もしたらしく、その患者が町内を歩いている姿も映し出されていました。この姿の裏には高安君以下同教室の全員のなみなみならぬ苦勞が結集されている筈であり、敬意を表さざるをえない気持ちになったのでした。

臓器移植は、今日の医学の一つの話題ですが、人口のあまり多くない、地方の中都市では、それに先行して移植用臓器の長期保存という問題があるわけです。移植を必要とする患者があった場合、すぐに必要且十分な条件を備えた臓器を入手する可は、容易なわざではないのです。一部 Eye-bank, Blood Bank 等といわれて、実用されているものもありますが、その他の大半は全くその研究もほんの端緒に立ちつくしている状態です。

血液等では、この問題に対しても或る程度の解答が出されているので、その他の臓器についても、この点から出発することが可能であらう。その他でも骨の長期保存あたりが早く解決される可能性をもっている様に思える。

ともあれ、この際、当大学のおかれている特殊性から移植用臓器の保存えの足がかりとして、又、今日の医学の知識として、臓器移植を一般に認識して貰う為、綜合講義を持たれたのを機会に、その講師の方々の原稿を茲に特集していただいたものであり、大方の御参考とならば幸である。

(係)